

平成 29 年度 第 5 回歯科口腔保健推進検討会（議事要旨）

1. 日時 平成 30 年 3 月 14 日（水）19 時～21 時

2. 場所 センタープラザ 6 階 スペースアルファ三宮 会議室

3. 出席者

委員（50 音順）

足立会長、池端委員、岩崎委員、岩本委員、片野委員、北上委員、神原委員、定政委員
薩摩委員、杉村委員、高見委員、田口委員、宅見委員、竹信委員、中塚委員、西尾委員
三代委員、百瀬委員、安井委員

4. 議題

（1）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」について（事務局より説明）

- ① 平成 29 年度第 4 回神戸市歯科口腔保健推進検討会（平成 29 年 12 月 8 日開催）議事要旨
について（資料 3）報告
- ② 平成 29 年度第 2 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会（平成 29 年 12 月 26 日開催）議事要
旨について（資料 4）報告
- ③ 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」（案）の市民意見の募集結果について（資
料 5）報告

事務局—1 月 26 日～2 月 26 日までの 1 か月間実施し、意見提出総数 366 通の内、84 通は
記載漏れ、市外在住、期間外があり、有効意見数は 282 通となった。

意見の内容としては、フッ化物洗口についてが 533 件と多数を占めた。

内訳としては、フッ化物の安全性や効果に疑問がある等と言った反対意見と、永久歯に
はえかわる学齢期での実施が非常に効果的である等と言った賛成意見があった。

市民意見に対する市の考えとして、参考資料 2 の「フッ化物洗口ガイドライン」を元に、
有効性・安全性については、すでに示されている、口腔保健向上のためフッ化物応用は
重要、4 歳～14 歳の期間での実施がう蝕予防対策としては最も大きな効果をもたらす、
洗口そのものは 1 分間でできる等を記載し、教員の多忙を含む学校の環境整備について
は検討課題とするとしている。「フッ化物洗口ガイドラインについて」（参考資料 2）に
ついて併せて説明。

委 員—学齢期の取り組みに記載した「フッ化物洗口の実施について調査・検討する」に
対し、ある団体が組織的に意見を出してきた。歯科医師会としても意見を出した。

募集した市民意見はある程度まとめていくのか。

フッ化物洗口の実施については、今後少し時間をかけて、教育委員会、保健課、学校
歯科医会のメンバーで検討していきたい。

委 員—パブリックコメントはプランの中にどのように反映していくのか。

事務局—「学校でのフッ化物洗口の実施について調査・検討する」は、このままの形で掲
載する。

委員—パブリックコメントのフッ化物使用に反対する意見は、かなり誤った認識によるように思う。

事務局—パブリックコメントを受けての対応は、教育委員会と協力しながら、少しずつでも進んでいけたらと考えている。より良い形を作っていくことには変わらないので、両方の意見があることを踏まえ、まとめていきたい。

委員—水道設備が少ないことについては、歯科医師会の方からも増設を希望していた。事務局—新年度から抜本的な改善を図っていく予定、トイレ以外に手洗い場がない学校もたくさんある。

委員—学校の設備として、健診器具の滅菌に必要なオートクレーブは入っているのか。事務局—中学校については、平成 28 年度～29 年度にかけて 3 分の 2 ぐらい導入されている。小学校については今年度から始める。(幼稚園、高校については導入済み)

④ こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」案（資料 6）について説明。

事務局—パブリックコメントを受けての変更として、P29 にコラムとして、オーラルフレイルについて追記した。また、本日の資料には、参考資料をつけている。

会長—この案は、ほぼ最終案ということで、パブリックコメントを受けての変更点は、フレイルの追記部分と「歯科医院で定期的に歯石を除去すること」の 2 点で、フッ化物洗口については文言変更なしということではないか。

委員—P 4 歯科医院で定期的に歯石を除去することとあるが、歯石除去だけではないのではないか。

事務局—PMTC（機械的歯面清掃）と入れたかったが、一般には分かりにくいと思い、歯石除去と記載した。

委員—口腔内のメンテナンスではどうか。

委員—メンテナンスは一般的には分かりにくく医療用語として一般向けではないと思う。

委員—「歯科医院で定期的に歯科健診や専門的口腔ケアを受ける」ではどうか。

事務局—検討し、訂正も含め考えていく。

委員—P29 のオーラルフレイルはまだ一般向けではないのではないかと、理解できているのか。フレイルチェックで足のふくらはぎを測定するように、何か簡単にチェックできる方法を考えてもらったらよいのではないかと。

事務局—P29 中段のオーラルフレイルは「3 項目以上・・・口の働きが衰えている」とあるので、その下にだ液ごっくんテストや咀嚼ガムをチェックする等、具体的な内容を入れると良いかと。

委員—オーラルフレイルは、きちっとした定義もまだ今のところはなく、フレイルよりもまだ手探り状態、エビデンスをきっちり示すより、口の機能が衰えると全身の機能も衰えると言うことが分かる表現にしてほしい。

(2) 新規事業：オーラルフレイル対策について（資料 7）について説明

事務局—神奈川県ではオーラルフレイルの取組が進んでいる。神奈川県ではマニュアル(参考資料 1, 2)をもとに、今年度末まで訓練介入を実施して、今後公開される予定。最初の実態調査では、診療所に来られている方では約 2 割、施設入居者では約 7 割オーラルフレイルが疑われた。

神戸市も具体的な方法を協議して 30 年秋頃から何らかの形で実施したいと考えている。

全体の予算は拡充となっているが、すでにフレイルチェックを行っているので、その一環としてオーラルフレイルが新規で入るということで、事業名は「フレイル予防施策の推進」となっている。65歳の市民を対象に、歯科医院で、歯のかみ合わせや舌の動き等のチェック、咀嚼力や嚥下機能等の口腔機能の評価をし、必要に応じ口腔機能向上のための指導をするとしている。

委員—チェックしてその後どうするのか。

事務局—あんしんすこやかセンターでの介護予防事業との連携等、今後検討していき、チェックをして、その後のフォローをどういう流れであるかを考えていきたい。

委員—実際には次年度からということであるが、フレイルチェック時に行っていることよりももう少し高度なことを考えているのか。

事務局—オーラルフレイルチェックの実施場所によるが、歯科医院に行く場合はそれなりなのが期待されると思う。イメージとして、神奈川県のマニュアル（参考資料1）を参考にしていきたい。

委員—国保で行っているフレイルチェックは1年経過してどうか。

事務局—2月末で、約2,000件の実施で、約70%が65歳である。

データについては現在分析中である。

特定健診の健診データと、フレイルチェックの結果データを、何らかの形で集約して活用したいと考えている。

フレイルチェックを受けた方には、結果は返している。

委員—簡単なものでよいので、データのまとめを資料として出してほしい。

フレイルの方はどの程度いるのか。

事務局—データはまだ集約できていない。現在は65歳が対象だが、来年度から66歳も対象とする。いわゆるハイリスク者はあまりいないのではないかと考えている。

特定健診・保健指導では、メタボを中心にしてきたが、高齢期の生活習慣病はフレイルということで、まずこの言葉を定着させ、メタボ予防からフレイル予防への生活習慣の切り替えを促すことを目的に行っている。今後は問題のあった方へのサービスについて検討していきたい。

事務局—オーラルフレイルチェック開始時には、フレイルチェックの結果についても提示できる範囲で示したい。「フレイル」「オーラルフレイル」を市民に啓発する良いきっかけと思う。

委員—オーラルフレイルが、施設では70%あったと言うのは当たり前で、オーラルフレイルではなく、口腔機能が低下した人である。ここを調査しても余り意味は無いが、これから弱っていく人の何が原因かつきとめていきたい。

(3) 神戸市歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（資料9）について（事務局より説明）

5. 報告

(1) 口腔がん検診について（資料9）（市歯科医師会より説明）

4月からの申し込みは往復はがきで行うこととした。

予想以上に異常があり、腫瘍性病変は受診者数113人中9人、約7%となっている。

内容は舌の良性腫瘍と思われるが、前がん病変がベルスコブできれいに出ていた。

大学病院に紹介した。その他の病変で要歯科受診は、約15%である。

事務局—口腔がん検診結果の分類の仕方が、異常ありや要歯科受診では、要精密検査なのかよく分からないので、今後相談させていただきたい。

委員—異常ありは、良性悪性に関わらず腫瘍等で、要歯科受診はその他の歯科疾患のことになる。

委員—広報紙の「口腔がん検診事業」の案内の近くに、中央区の歯科医師会に未入会の歯科医院が、広告欄を出してしているので、紛らわしいのではないか。行政は知っていたか。

事務局—知っていた。掲載基準は広報課に確認する。

(2) 訪問口腔ケアについて（資料10）（市歯科医師会より説明）

区による差はあるが、少しずつ増えてきている。

今後の研修会は、実習型も取り入れていきたいと考えている。

(3) その他、情報交換等

委員—歯科技工士はオーラルフレイルの中の食に関するところにおいて、良質な補綴物を患者に提供していく努力をしている。

委員—中央市民病院では、年4回市民フォーラムを行っており、5月19日（土）に、勤労会館で口腔がんについて市民向けに講演を予定している。

閉会（熊谷部長あいさつ）